日本写真芸術学会 関西支部第 12 回写真研究会

オーバー８K 高精細映像（画像）の今と VR の新たな流れ

～ 38K以上の静止画撮影技術とドーム映像やヘッドマウントディスプレイでの360度画像の変貌について ～

デジタル画像における写真・映像を取り巻く環境は日進月歩の成長を見せており、技術は常に進化しています。本研究会では、「オーバー８K高精細映像（画像）の今とVRの新たな流れ」をテーマに、この進化の最先端を探ります。

特に注目するのは、38K以上の超高解像度静止画撮影技術のブレイクスルーと、その高精細画像がVRに与える影響です。具体的には、この技術がドーム映像やヘッドマウントディスプレイ（HMD）における360度画像のリアリティと没入感をいかに変貌させているかを解説します。超高精細化がもたらす革新的な表現力と、VR技術が切り開く没入型コンテンツの最新動向を共有し、今後の映像制作やXR（Extended Reality）コンテンツ開発の可能性について考える場とします。

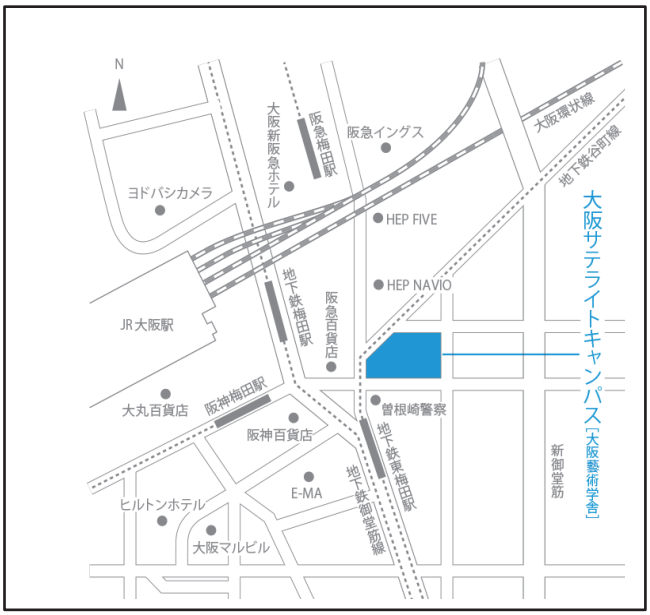
日時：2025 年 12 月 20 日（土曜日）
午後 2 時～午後 4 時（午後 1 時 30 分開場）

登壇者：赤木 正和
（大阪芸術大学芸術学部写真学科 教授）

＊参加無料（対面参加定員 50 名）
＊オンライン参加者は事前に申し込みください

https://forms.gle/M8TQbmCPNTAixjAUA
（対面で参加の方は事前申込不要です）

＊対面開催会場
京都芸術大学大阪サテライトキャンパス 503 教室
（大阪市北区小松原 2-4 大阪富国生命ビル 5 階）



阪急梅田、阪神梅田、JR 大阪、
地下鉄梅田、東梅田駅から徒歩 5 分。
地下鉄四ツ橋線西梅田から徒歩 10 分。
＊会場には駐車場はございません。

申込フォーム QR コード▶